



『埼玉県レッドデータブック2011 植物編』（平成24年3月）及び『埼玉県レッドデータブック2008 動物編』（平成20年3月）に掲載されている生物で、今回の調査で報告されたものです。

■絶滅 (EX)	すでに絶滅したと考えられる種
植 物：コシガヤホシクサ（ホシクサ科）	
■絶滅危惧ⅠA類 (CR)	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
植 物：カキツバタ（アヤメ科）	
鳥 類：オオジシギ（シギ科）、オオバン（クイナ科）、ヒクイナ（クイナ科）、ホオアカ（ホオジロ科）	
■絶滅危惧ⅠB類 (EN)	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種
植 物：エビネ（ラン科）、オミナエシ（オミナエシ科）、シラン（ラン科）、ミズタガラシ（アブラナ科）	
鳥 類：ウズラ（キジ科）、ケリ【越冬鳥】（チドリ科）、コアジサシ（カモメ科）	
■絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅の危険が増大している種
植 物：アサザ（ミツガシワ科）、ギンラン（ラン科）、ゴキツル（ウリ科）、ナガボノシロワレモコウ（バラ科）、 ノウルシ（トウダイグサ科）、ハンゲショウ（ドクダミ科）、ヒメウス（キンポウゲ科）	
鳥 類：オオタカ（タカ科）、カンムリカイツブリ（カイツブリ科）、クイナ（クイナ科）、コジュリン（ホオジロ科）、 ササゴイ（サギ科）、チュウサギ（サギ科）、ハヤブサ（ハヤブサ科）、ヨシゴイ（サギ科）	
昆虫類：アオヤンマ（ヤンマ科）	
爬虫類：ニホンイシガメ（イシガメ科）	
甲殻類：ヌカエビ（ヌマエビ科）	
■準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱(せいじゃく)な種
植 物：アカガシ（ブナ科）、イヌフグリ（ゴマノハグサ科）、ウラシマソウ（サトイモ科）、コイヌガラシ（アブラナ科）、 ゴヨウマツ（マツ科）、シュンラン（ラン科）、シロバナサクラタデ（タデ科）、フジバカマ（キク科）、 ミゾコウジュ（シソ科）	
鳥 類：アオジ（ホオジロ科）、イカルチドリ（チドリ科）、イソシギ（シギ科）、オオコノハズク（フクロウ科）、 タゲリ（チドリ科）、チョウゲンボウ（ハヤブサ科）、ツミ（タカ科）、ノスリ（タカ科）、バン（クイナ科）	
昆虫類：オオチャバネセセリ（セセリチョウ科）、カワラバタ（バタ科）、クルマバタ（バタ科）、 コムラサキ（タテハチョウ科）、ホシミズジ（タテハチョウ科）、マツムシ（コオロギ科）、 ミスジチョウ（タテハチョウ科）	
爬虫類：アオダイショウ（ナミヘビ科）、クサガメ（イシガメ科）、ニホンヤモリ（ヤモリ科）、ヤマカガシ（ナミヘビ科）	
両生類：トウキョウダルマガエル（アカガエル科）	
魚 類：ギンブナ（コイ科）、ナマズ（ナマズ科）	
甲殻類：モクズガニ（イワガニ科）	
■絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い種
鳥 類：カワセミ（カワセミ科）、ケリ【繁殖鳥】（チドリ科）	
昆虫類：スズムシ（スズムシ科）	
■地帯別危惧 (RT)	地域別に見たときに存続基盤が脆弱な種
鳥 類：アオバズク（フクロウ科）、ウグイス（ウグイス科）、ヒガラ（シジュウカラ科）、ベニマシコ（アトリ科）、 ホオジロ（ホオジロ科）、ヤマガラ（シジュウカラ科）、ルリビタキ（ヒタキ科）	
哺乳類：ホンドイタチ（イタチ科）、ホンドタヌキ（イヌ科）	
爬虫類：ニホントカゲ（トカゲ科）	
甲殻類：スジエビ（テナガエビ科）	



希少植物

ナガボノシロワレモコウ

バラ科

埼玉県レッドデータブック2011絶滅危惧Ⅱ類(VU)

北海道、本州の北部・中部の湿った草原や湿地に生育する高さ0.6～1mの多年草。8～9月にかけて、茎の上部に白い小さな花が並んだ穂を付ける。花の穂は、長さ8～9cmの円筒形。最近では、湿地の埋め立てや河川改修、園芸採取などにより減少している。越谷では、元荒川沿いの土手に自生。



アサザ

ミツガシワ科

埼玉県レッドデータブック2011絶滅危惧Ⅱ類(VU)

本州、四国、九州の池沼水路などに生育する多年草の浮葉植物。6～8月に3～4cmの黄色い花を咲かせる。花びらの縁には、ちぎった和紙の繊維のような毛がある。卵形または円形の葉を水面に浮かべ、地下茎は泥の中を横に長くはっている。近年、水質汚濁など生育環境の悪化により減少。越谷では、古利根川沿いに自生地があり、長さ1kmにわたって毎年見られる。

フジバカマ

キク科

埼玉県レッドデータブック2011準絶滅危惧(NT)

本州の関東地方より西、四国、九州の河川の土手などに生育する高さ1～1.5mの多年草。9月ごろ淡い紫紅色の小さな花を茎の上部に多数付ける。秋の七草としても有名で、かつては日本各地の河原などに群生していたが、近年、河川改修などの影響で自生地が減少。越谷では、元荒川沿いの土手などに自生している。



「越谷」の名を持つ植物



その名は、**コシガヤホシクサ**。ホシクサ科の植物で、「埼玉県レッドデータブック2011」では**絶滅(EX)種**。昭和13年に越谷市の元荒川付近で発見されたが、その後、越谷周辺では確認されていない。現在、越谷市農業技術センターで栽培されていて、野生復帰を図っている。湿った所に生育する一年草。水中でも生育し、7～9月に、高さ10～30cmの花茎に白い星型の小さな花を付ける。葉は束生し、線形で長さ7～15cm。



希少鳥

ヨシゴイ

サギ科

埼玉県レッドデータブック2008絶滅危惧Ⅱ類(VU)

夏鳥として渡来する小型のサギで、河川や湿地・池沼等の水辺に生息する。ヨシ原などで獲物を待ち伏せし、小魚や昆虫などを捕食する。かつては、ヨシやガマが茂る水辺で繁殖する夏鳥であったが、埋め立てや護岸化により、繁殖地が限られている。水生植物が繁茂した人工調節池が繁殖地となつているところもある。越谷では、大相模調節池などで確認された。



ヒクイナ

クイナ科

埼玉県レッドデータブック2008絶滅危惧ⅠA類(CR)

夏鳥として全国に渡来し繁殖しているが、北日本には少ない。顔から腹部にかけて茶色で、河川や水田などの湿地を好んで生息する。繁殖には湿性植物が豊かな休耕地や河川、池沼が必要であるが、近年は埋め立てや農地の減少、河川改修により適地が減少している。越谷では、恩間新田付近で確認された。

コアジサシ

カモメ科

埼玉県レッドデータブック2008絶滅危惧ⅠB類(EN)

本州以南の海岸や河原などに夏鳥として渡来し、砂浜や埋め立て地、河川中流の砂礫(されき)地などで集団営巣する。エサの小魚を、頭から水面にダイブして捕らえる。近年、砂礫地の草地化や河川改修による土砂採取などにより繁殖地が減少している。越谷では、大相模調節池などで確認された。



オオコノハズク

フクロウ科

埼玉県レッドデータブック2008準絶滅危惧(NT)

全国の平地から山地の森林で繁殖し、冬は温暖な地方へ移動するものもいる。山地の森林の大木の洞で営巣し、冬は低地帯の林などで越冬するものもいるが、埼玉県内での記録は少ない。日没と同時に洞から飛び立ち、林内、林縁でネズミ類等を捕食する。越谷では、カラスに追われたとみられる個体が、中央市民会館周辺で確認された。



希少昆虫

アオヤンマ

ヤンマ科

埼玉県レッドデータブック2008絶滅危惧Ⅱ類(VU)

北海道南部から本州、九州のヨシやガマが繁茂する池沼に生息し、成虫は梅雨期を中心に姿をあらわす。体長は約70mmで黄緑色の体色が非常に美しいヤンマである。近年、池沼の埋め立てや乾燥化が進み、低地の生息地は失われつつある。越谷では、県民健康福祉村付近で確認された。



コムラサキ

タテハチョウ科

埼玉県レッドデータブック2008準絶滅危惧(NT)

北海道から九州まで分布し、低地から山地にかけての河辺などで生息している。翅(はね)をひろげると長さが65mmほどになる。オスの翅の表面は、オムラサキを小型にしたような紫色に光り、裏面は黄褐色の地色に白斑、白帯がある。近年、幼虫の食樹であるヤナギ類の減少により、個体数も少なくなってきている。越谷では、県民健康福祉村や大吉調節池、宮内庁埼玉鴨場等で確認された。

その他の希少生物

ホンドイタチ

イタチ科

埼玉県レッドデータブック2008地帯別危惧(RT)

北海道から、九州、沖縄に分布し、低地帯から山地帯まで広範囲に生息している。水辺を好み、近くに水田のある山沿いや川の近くに生息し、小動物を捕食する。木の根元や崖の岩石の間の洞等を巣穴にしているが、河川改修や市街化の進行等により生活環境が悪化している。越谷では、大吉調節池や恩間新田周辺で確認された。



トウキョウダルマガエル

アマガエル科

埼玉県レッドデータブック2008準絶滅危惧(NT)

関東平野から仙台平野にかけて分布し、池沼や水田、湿地等に生息する。体長は70mmほどで、腹部を中心に小さな黒い斑点がある。5月ごろからため池や水田にまとめて産卵し、産卵後も水辺から離れない。今後、最も危惧される種で、水田等の消失や乾燥化が生息地を脅かす要因となっている。なお、関東では以前トノサマガエルとよばれていたが、現在は、トノサマガエルとは別種のカエルであるとされている。越谷では、平方公園や出羽公園周辺等で確認された。

久伊豆神社の埴(ねぐら)に集まるカラスの範囲調査

秋から冬にかけて、越ヶ谷の久伊豆神社でカラスの集団埴が形成されている。その久伊豆神社に集まるカラスはどの範囲から集まって来ているのか、それを推定することを目的としたのが本調査である。

調査実施日は、「カラス集団埴の個体数調査」予定日（12月15日）の前後1週間とし、各調査員の都合と天候のよい日とした。

調査の時間帯は、各調査員の調査実施日の日の入り時刻ををさんで前5分間、後5分間の計10分間である。

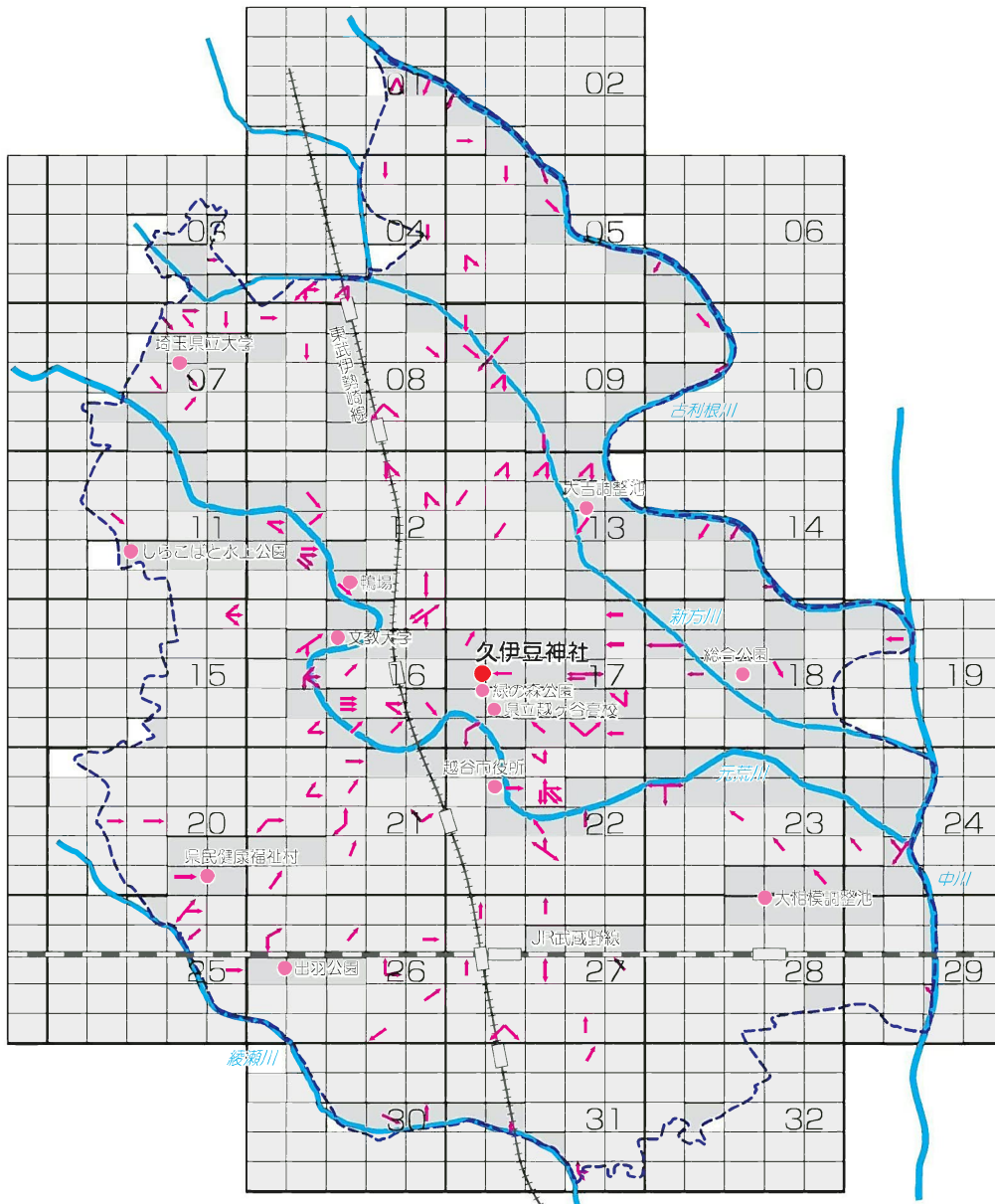
調査場所は各調査員の自宅、または自宅付近で頭上の空が見える場所とした。

調査方法は、上空を通過するおよその数と飛んでいく方向を記録した。

調査報告は「119メッシュから375件」、その結果を下の地図に示す。矢印は飛んでいく方向を表している。平成19年度と同様、全体的に久伊豆神社の埴に集合していくことがよく分かる。

では、どの範囲から集まって来ているのか。市町の区界付近の矢印は、東西南北、全ての方角から越谷に流入してきていることを示している。流入してくる数は正確には把握できなかったが、調査員の声を拾ってみると「北の方から、どんどんどんどん越谷に入ってきた（平方地域）」、「何百羽といっぺんに入ってきて数えられない（埼玉県立大学付近）」、「川の流れるように帯となって入ってくる（吉川橋付近）」等々があった。

今回の調査結果より、越谷市でのカラス対策は、近隣の市町と密接に連携しながら実施していく必要があることがより明確になった。
(文責 山部直喜)



カラス集団(ねぐら)の個体数調査

本調査は、平成13年より越谷市自然ウォッチング指導員連絡協議会の事業として、越谷市環境政策課及び賛同者の協力を得ながら、毎年12月に実施している（平成16年は中止）。しかし、平成24年は、「久伊豆神社の罫に集まるカラスの範囲調査」と共に「第4次ふるさといきもの調査」の一環として実施した。

【日 時】平成24年12月16日（日）、15:00～17:10
 【場 所】越谷市久伊豆神社周辺（地図参照）
 【天 候】快晴（調査時間帯の平均気温14.5℃、風向は北西が中心、平均風速5.6m/s）
 【参加人数】14名

調査日は、雨天のため当初予定の12月15日（土）から予備日の12月16日（日）に延期された。この日は第46回衆議院議員選挙日と重なったが、市民調査員14名が参加し、表1の結果を得ることができた。以下に結果の補足をする。

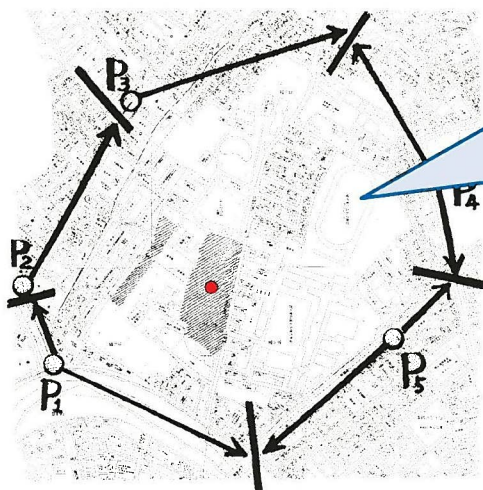
- ① 総計は、昨年（5,710羽）と比較して約500羽の減少である。
- ② 当地の罫（地図 斜線の部分）はハシブトガラスとハシボソガラスで形成されていたが、今回は観察地 P4 でミヤマガラス約200羽の進入を認めた。ミヤマガラスの罫入りは、平成13年の調査開始以来、初めてである。
- ③ 昨年、カラスの罫の中に形成されたダイサギとコサギの罫は、今年は、カラスの罫のより中心部に移動した（地図 ●印）。
- ④ 平成24年10月4日より平成25年2月27日の間、カラスの罫周辺において計51回、鷹匠による鷹（和名 モモアカノスリ2羽）を使ってのカラス除去が実施された（右下写真参照）。正式事業名は「久伊豆神社（越谷市）周辺カラス追い払い業務」、実施者は埼玉県環境部自然環境課である。

表 1

観察地	A	B	C	D
越谷アリタキ植物園 久伊豆神社・天嶽寺	71			71
P1	88	2,405	1,273	1,220
P2	37	680	257	460
P3	15	998	165	848
P4	2	1,929	69	1,862
P5	0	943	121	822
計	213	6,955	1,885	5,283

- A：調査開始直前に観察地から確認できた数
 B：調査時間内で罫へ入った数
 C：調査時間内で罫から出た数
 D：罫の個体数（A+B-C）

* 調査に際し、昨年より埼玉県立越ヶ谷高等学校（宮田校長）より敷地内への入校許可を受けている。



（文責 山部直喜）